

B-141 被服材料の力学的性質とゆとり感 —セミタイトスカートについて—  
都立立川短大 原田隆子 ○桃厚子

目的 衣服を構成する際、人体形態ならびにサイズを的確に把握しパターン設計することが重要であるが、さらに用いる被服材料の特性を知り、それがパターンメーキング上に考慮されることが必要である。われわれは婦人服のうちワレピースについて織物素材とゆとり感との関連についてすでに考察したが、今回はセミタイトスカートを対象とし用いる素材の力学的性質（物理量）とゆとり感（官能量）との関連について、裏なしの場合と裏つきの場合の両面より検討したので報告する。

方法 表地の試料布はセミタイトスカート素材としてよく用いられる綿布2種、混紡布3種、毛織物3種の計8種、裏地はキュプラ100%の中肉タフタ1種を用い、ゆるみW-1cm、H-4cm、裾の開き角度5°の基本的な型の実験服を作製し、20~21才の女子3名による着用実験もSchefféの二対比較法により行った。ゆとり感の評価項目は4項目設定し各々3段階で評価した。物理量は剛軟度、伸びかたさ、伸長弾性率、せん断かたさ、せん断回復率、表面摩擦係数を測定し、官能量と物理量の関係をみるため因子分析を行った。

結果 着用実験の判定結果を分散分析した結果いづれも主効果は1%水準で有意であり、素材によりゆとり感に差がみとめられた。評価項目着脱のしやすさでは、裏つきが裏なしより8種の主効果の推定値の分散が小さく、裏をつけることにより素材による差が小さくなる傾向がみられるが、他の評価項目ではその傾向はみられない。6項目の物理量の各方向に厚さ、重さを加え官能量は裏なしの場合の全体の着心地をもって因子分析をした結果官能量はせん断かたさ、曲げかたさ、伸びかたさのななめと関係が深いと見られる。